論文審査の結果の要旨

氏名：横　田　優　樹
専攻分野の名称：博士（医学）
論文題名：Long-term outcomes and health-related quality of life in patients with autoimmune encephalitis An observational study
（自己免疫性脳炎患者の長期転帰と健康関連 QOL についての観察研究）

審査委員：（主 査）　教授　新　見　昌　央

（副 査）　教授　鈴　木　正　泰　　教授　吉　野　篤　緒

教授　兼　板　佳　孝

自己免疫性脳炎(autoimmune encephalitis:AE)は、急性期には重篤な症状を引き起こすものの、神経学的な予後は良好とされてきた。しかしながら、AE の発症から数年経過した後も精神症状が残存し社会復帰に支障をきたしている患者も少なくないということが近年報告されている。これまでのところ、AE 患者における社会復帰や後遺症に関して長期的な経過の報告は限定的である。

本研究では、日本大学医学部附属板橋病院で治療された AE 患者を対象に、後遺症や quality of life (QOL)に関する長期的予後について、アンケートで調査を行った。最終的に 21 人の患者から回答が得られ、発症から調査までの中央値は 63(25～156)ヵ月であった。調査の結果、アンケートの回答が得られた患者の 100%で、運動機能に関しては良好な転帰(modified Rankin Scale≦2)をたどっていた。しかしながら、43%で記憶障害、性格変化、睡眠障害等、何らかの後遺症を認めた。また、以前の職場や学校に復帰することができたのは 71%に過ぎなかった。包括的な QOL が正常範囲内にあったのは 71%であったが、社会的な QOL が正常範囲内にあったのは 52%であった。後遺症の無い患者では、職場や学校への復帰率は 100%であったのに比して、後遺症を有す患者では職場や学校への復帰率は 33%と有意に低かった。本研究の結果、AE 患者の社会復帰や長期的な QOL 改善のためには後遺症をきたさぬよう、AE の早期診断と早期治療が重要であると考えられる。

本研究は十分な学術的意義を有し、本邦における実臨床においても多いに役立つ内容である。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるのに値するものと認める。

以　　上

令和 6 年 6 月 26 日